

高い志を掲げ、自らの目標達成やよりよい社会の実現に向けて、主体性をもって果敢に未来を切り拓く生徒

- 〈本校生であることに誇りを持ち、規律正しく活気ある学校生活を実践する生徒〉
- 〈「確かな学力」や「実戦的な力」の獲得をめざし、主体的に学びに向かう生徒〉
- 〈豊かな人間関係を構築し、他者を尊重しながらともに学び行動できる生徒〉
- 〈自己の目標実現のため、心と体を鍛えつつ、不断の努力を継続できる生徒〉
- 〈探究活動を中心に市民性や社会貢献の意識を高めつつ、次代を担う志を持った生徒〉

日々の活動記録や学びの成果をデジタル化して蓄積することによって、「振り返り」の頻度を高めます。生徒は、いつでもどこでも、自分の高校生活を振り返ることが出来るようになります。良質な「振り返り」を実現するためにも、良質な「対話」を日常的に意識します。「語る」「語り合う」「対話」の充実により生徒自身が「主体的学習者」へと成長することをめざします。

今回の優秀発表会ではいろいろな人の意見を聞くだけでなく、自分も発表する立場だったので、よりいい機会になったと感じています。昨年も発表側でしたが、今年は自分ひとりの力で発表ができた、良かったと思います。

貴校の取り組みは、生まれ育った地域の課題、対応策について考えるとともに、答えのない問いに触れ、考える体験となり、貴重な経験になると思いました。

生徒の皆さんが、文献をあたったり実地調査を行ったりと、探究活動だけでなく今後の学びにも必要な手順を踏みながら、1つのテーマについて考察を深めていく様子が、とても印象深かったです。成果発表をきいて、こんなに成長するのがと感心しました。今後も頑張ってくださいと思います。

自分たちが目指したい結果にならなかった班は、上手に方向転換しまとめて発表できていた点に感じました。逆に、順調に調査が進んだ班は内容が充実し、発表もとてもいいできていました。この活動に正解はないので、自分たちの調査内容に自信をもってほしいなと感じています。みなさん、すばらしかったです。

能代高校のHPはこちらから

日々の活動の
記録

SDGsとの関わり

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

11 住み続けられる
まちづくりを

14 海の豊かさ
を増やす



今回の体験を通して自分の将来を決めるのを手助けしてくれたように感じました。自分の将来についてもしっかりと考える機会ができたのでいい経験だと思いました。

発表の内容だけでなく、話す内容やスライドの工夫などの要素が1年生2年生どちらも素晴らしく感じた。今回の発表会を聞き、私達には自らアクションを起こすという積極性が求められるのだと改めて感じた。

2年生は勿論、1年生のグループ探究も非常にレベルが高く、見ごたえのある発表会だった。自分が発表した際はしょっちゅう唾むなど技術的に改善したい点があったが、内容に関しては他の探究に引けを取らないものに仕上げられたと思った。

自分の個人探究の内容は他の探究ともつながるテーマであったため、今後言語について探究する際には、他領域で必要とされている言語にも取り組みたいと感じた。

すべての提言に具体性があり、また分析する力が見えて学ばなければいけないと感じた。一つ一つの情報の紹介だけでなく、そこから何を読み取れるのかそれを来年度は、目標にして取り組んでいきたいと思う。

それぞれテーマから見いだせた
発想力などが特に素晴らしいと
感じました。すべてのチーム及
び方々がそれぞれ違った良さが
あったため、見ていて興味深い
ものが多かったです。

優秀発表を聞いて自分の探究にも
こんな風に活かすことができるな
という改善点を見つけることがで
きた。ただ調べるだけでなくそこ
からどう考え提言するかが大事だ
と改めて感じた。

物理的障害を
乗り越える
ICTツールの
可能性

プレゼンをするにあたって事前
に行うデータ収集がとて重要
で、それを元に現実味があ
り誰が聞いても納得させら
れるような考えを述べるが大
切だと思った。来年度は進路
に基づいた個人探究があるの
で今年度の反省を踏まえ、優
れた探究を行いたい。

個性的な発表が多く楽しかったです。自分の興味のある分野だけでなく他の分野とも関連付けて研究することが大事だと改めて気づきました。

生徒たち自身で地域課題からテーマ設定、調査を行う本活動はとても良い活動だと思います。

それぞれの班が提言を示していましたが、提言の実行とその振り返りまでをプログラムに含められると更に学びが深まるかと思料いたします。

生徒にとっても能代にとっても、とてもいい、重要な取り組みだと考えています。大学での学修にもつながる活動だと考えています。生徒のやる気をうまく引き出すことが課題だと感じています。

探究活動 Planning

- 1 年次：地域課題解決型（グループ探究）
2 年次：キャリアデザイン型（個人探究）
3 年次：自己進路実現型（志望理由書等）

地域の中心校として、「地域への思い・愛情」「これからの社会で必要とされる資質・能力」を育む取り組みであるべきと考えました。1 年次の経験をふまえ、2 年次では進路に関わる個人探究を主体的に進め、3 年次での自己の進路実現に繋いでいきます。1 年次は「ローカル」な視点からの探究ですが、「リージョナル」「グローバル」な視点への発展を意識して探究を深化させていきます。

【育成をめざす資質・能力】 8 plus 2

- ① 学力・教養

② 思考力

③ 提言力

④ 質問力
- ⑤ 協働力

⑥ 自己管理能力

⑦ 向上力

⑧ 自己肯定力
- ① キャリアデザイン・キャリアマネジメント

② シティズンシップ

強く「地域」を意識した 5 領域設定

秋田県や能代市の抱える今日的な課題と未来に向けての戦略に沿ったものとししました。



テーマ設定

夏休み期間も利用して、探究テーマの設定やフィールドワークの計画を相談します。

ルーブリック説明会

探究活動の目的の再確認と評価法であるルーブリックの説明を行います。評価の観点やポイントを理解することで活動の質を高めます。

7 月



探究活動出前講座

5 つの領域について、生徒は希望領域毎に分かれ、大学教員や市役所職員による講話を聞きます。地域の抱える課題について、それぞれ学術的・行政的観点からの講話をしていただきます。

「多様性」を意識したグループ編成

希望領域と関心のあるキーワードに関するアンケートを実施。それをもとに班編成を行います。班編成の際には同一属性の生徒が分かれるよう配慮しています。

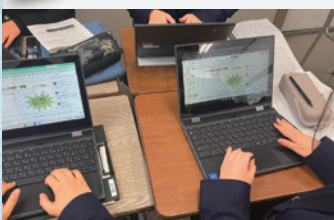
9 月



フィールドワーク 全員・終日

全員が 1 日フィールドワークを行います。各班、必ず複数箇所への訪問を義務づけています。Classroom 上で成果の共有や報告を行います。訪問のアポ取りも生徒自身が行います。

9 月



探究活動本格化 プレゼンデータ作成

フィールドワークが終わると、いよいよ探究活動が本格化します。仮説を立てて、課題解決への話し合いが深まっています。また、「情報」の授業でもプレゼンファイルの作成や探究に関わる指導について連携を進めています。

10 月



中間発表会

領域毎に別れて、これまでの探究の経過を発表します。大学教員や市役所職員の方にアドバイザーとして参加していただき、的確な指導助言をいただきます。同時に、生徒同士でもルーブリックを用いた相互評価を行い、Forms の「アンケート機能」を活用して、即時に「振り返り」を行います。

調査・探究の深化

外部アドバイザーの指導助言、生徒からの質問や相互評価の結果や意見を踏まえ、これまでの探究を振り返り、深化をはかります。ここでどれくらい「主体的」に活動できるかが最終発表の質を左右します。独自で追加のフィールドワークやアンケートなどを実施したグループもありました。できれば全てのグループが「外」に出て欲しいと考えています。

12 月



成果発表会 相互評価・即時評価

半年間進めてきた探究活動の最終発表会です。多くの外部アドバイザーのみなさんにも聴いていただきます。どの班も中間発表からの成長の跡が見られます。発表に対する鋭い質問も飛び交います。成果発表会でも Forms を用いた相互評価・即時評価を行いました。生徒たちは自分のタブレット端末でアンケートに回答します。全ての発表が終わってからは、各自がこれまでの探究の成果を「振り返り」ます。他者からの評価と自己評価、そして外部アドバイザーによる評価を比較することで、自己理解が深まります。

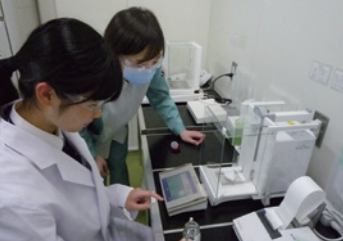
「学び方の学び」

「自分がやりたいテーマではなかった」そんな声が聞かれることがあります。グループでの活動ですので、そういう思いも理解できます。でも、2 年次は「個人探究」です。思い切り自分の興味関心を探究してください。情報の集め方、探究の進め方、提言を想像する力、他者との協働、外部との関わり方、1 年生では、「学び方を学ぶ」のです。

最終的な自己評価

優秀者の発表をふまえて、最終的な「振り返り」を行います。発表会の度に、「他者評価」「自己評価」を繰り返していきます。そこに「外部アドバイザーからの厳しい評価」も加わることで、自分の成長や課題を実感しやすくなっています。

2 年生 「個人探究」



1 年次の経験をふまえ、2 年次では、自分の進路目標に関連したテーマを設定した「個人探究」を行います。本校では、2 年生全員がインターンシップを実施しています。本校におけるインターンシップは、単に就業体験にとどまらず、個人探究を深化させるためのフィールドワークのような意味も持っています。訪問先には、事前にその分野・業種に関わる質問状を事前に送付します。これは、目的・課題意識をもって活動してもらいたいためです。また、2 年次での探究では、「ローカル」な視点はもちろん持ちつつも、そこから「リージョナル」「グローバル」な視点への発展を意識します。社会に対する多角的な視点を養成しつつ、自己の進路実現に向けてのモチベーションを高める活動となります。成果発表会を経て、優秀者は 3 学期に全体発表があります。

- 3 月 個人探究
インターンシップ説明会
4 月 探究テーマ決定
6 月 インターンシップ先決定
7 月 事前質問送付
インターンシップ
(全員・2 日間)
9 月 中間発表会
11 月 成果発表会
3 学期 優秀発表会

探究活動実施に向けて

- 「持続可能」な計画であること
- 可能な限り「総合的な探究の時間」内での完結
- 「外部機関」との協力関係の構築
- 「評価」や「振り返り」の効果的実施

校内、それも教員の指導だけで 生徒同士の学び合い！
完結させない体制の構築！ 外部の方の温かい指導！

I C T (Google Workspace) の活用

Google Workspace とは

Google の提供するグループウェアとして利用可能な組織向けオンラインアプリケーションセットです。秋田県の県立高校全てが導入しております。本校の「探究活動」においては、「Forms」による各種アンケート、「Classroom」による連絡、「Site」によるポートフォリオ作成、「Meet」によるオンライン会議等に活用しております。



「探究活動」での Google Workspace 活用① 【コミュニケーション (Classroom)】



- 「Classroom」は、日々の活動の「場」として活用します。「総合的な探究の時間」以外でも自由度の高いコミュニケーションが可能となり、また、同時に活動履歴の可視化、データ化も行われます。
- 外部との連絡ツールとしても有効な手段となります。外部アドバイザーにもグループに所属していただき、生徒の活動履歴等を確認していただきながら、定期的に指導助言をお願いしています。



「探究活動」での Google Workspace 活用② 【アンケート (Forms)・ポートフォリオ (Site)】



- ルーブリックを用いた、即時の相互評価によって、すぐに「振り返り」が行えます。また、それだけではなく、その場で「振り返り」の成果を全体で共有することができます。
- 活動履歴や成長の軌跡が、データとして可視化、蓄積されていきます。

